

公表

## 事業所における自己評価総括表

○事業所名	チャイルドハートあらえ		
○保護者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月28日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	24	(回答者数) 24
○従業者評価実施期間	令和 8年 2月 1日		～ 令和 8年 2月28日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	10	(回答者数) 10
○事業者向け自己評価表作成日	令和8年 3月17日		

## ○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	子どもたちが安心感をもって来所してくれており、保護者様にも満足の評価を頂いていること。	活動内容が固定化されないように日々職員との話し合いを重ねている。 余暇時間でも子どもたちへ積極的にアプローチが行えるよう見守りを行っている。 伝えるべきことを送迎時や電話等で時間をとって、保護者様に伝えるようにしている。	保護者様から外出レク時の行き先や、創作等の活動の中で取り入れてほしい内容の要望もあるため、期待に応えることができるよう、柔軟な取り組みを展開していきたい。
2	研修やスキルアップの機会が整っていること。	必要があれば、随時研修を実施している。 研修内容を踏まえた上で、朝礼や終礼で検討を繰り返して行い、資質の向上に努めている。 資格取得にも積極的に、児童発達管理責任者の資格取得や強度行動障害支援者養成研修にも力を入れている。	より専門的な外部講師に依頼した研修も行っており、今後必要に応じて、研修内容の充実を図るためにも積極的に取り入れていきたい。
3	子ども達の活動等のスペースが十分に確保することが出来ている。	事業所の広さが120平米以上あるため、室内においても活発に運動が出来ている。また、空間(静かに過ごすスペース、運動するスペース)を分ける環境設定が出来ている。	利用者の興味やニーズに基づきながら、スペースを活かした活動カリキュラムを提供していきます。また、活動がマンネリしないよう、日々新しい活動を模索していく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	家族に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)や家族等も参加できる研修会、情報提供の機会等を拡充していくこと	保護者が参加可能な機会が、保護者会に限定されていること。	研修を通して職員のスキルアップ向上を図り、ホームページ等も活用して情報提供の場を拡大に努めていきたい。 保護者様が参加可能な場を各関係機関と調整した上で、実施していきたい。
2	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会について	行事への参加は行っていないが、地域行事の情報は収集するように努めている。 外出先では、安全面を考慮した上で、子どもたちの主体性を損なわないよう最大限に配慮している。	今後も情報収集に努め、社会資源を多く活用しながら、閉鎖的な事業所にならないよう、地域に根差す事業所作りに尽力している。
3			

公表

事業所における自己評価結果

事業所名		チャイルドハートあらえ				公表日	令和 8年 3月31日
		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点	
環境・体制整備	1	利用定員が発達支援室等のスペースとの関係で適切であるか。	10		活動プログラムに応じて、活動スペースを柔軟に確保している。	地面積が十分にあるため、活動内容に沿ってスペースをしっかりと確保できている。	
	2	利用定員やこどもの状態等に対して、職員の配置数は適切であるか。	10		配置基準を順守した配置を行っている。	配置基準より多くの職員を配置している。今後も、児童指導員の要件も考え、有資格者のみならず、専門性を重視して他分野での職務経験を持つ職員も配置していく。	
	3	生活空間は、こどもにわかりやすく構造化された環境になっているか。また、事業所の設備等は、障害の特性に応じ、バリアフリー化や情報伝達等、環境上の配慮が適切になされているか。	10		段差がなくフラットな空間になっている。	現在、バリアフリーが必要な児童の利用はないが、事業所内に段差がなく、配慮している。トイレにも手すりを設けている。	
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっているか。また、こども達の活動に合わせた空間となっているか。	10		毎日アルコール等を用いた清掃を実施しており、活動内容等に応じた空間展開を実施しております。	活動スペースが広いため、室内活動であっても十分に身体を動かすことが出来ている。今後も、心地よく過ごせるような環境を維持していく。	
	5	必要に応じて、こどもが個別の部屋や場所を使用することが認められる環境になっているか。	10		必要に応じて、学習室等を個別で使用可能な場所として設けている。	今後も、必要に応じて、クールダウン用のスペースとして、個別の空間を提供していく。	
業務改善	6	業務改善を進めるためのPDCA サイクル（目標設定と振り返り）に、広く職員が参画しているか。	10		毎日の朝礼・終礼にて情報共有や課題、結果等話し合っている。	今後も、朝礼、終礼での打ち合わせ、振り返り、月1回のカンファレンス等で改善案などについて協議し、共通認識の下で改善策を実行するようにしていく。	
	7	保護者向け評価表により、保護者等の意向等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		アンケート結果を全職員で共有することで解決すべき課題について明確化を図っている。	改善できる点はすぐに実行に移している。難しい場合は、代替案を用いて対応を図っている。	
	8	職員の意見等を把握する機会を設けており、その内容を業務改善につなげているか。	10		毎日の朝礼・終礼にて情報共有や課題、結果等話し合っている。職員会議等の機会も設けて業務改善の課題に繋げている。	さまざまな角度から出した意見を基に業務改善策を実施している。	
	9	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげているか。	10		第三者による評価を受けている。	苦情解決制度に則り、苦情受付担当者と苦情解決責任者を設置している。今後も、必要に応じて、第三者委員会による評価も受けしていく。	
	10	職員の資質の向上を図るために、研修を受講する機会や法人内等で研修を開催する機会が確保されているか。	10		外部研修や研修後の報告会を実施し、職員間で情報の共有化を図っている。	虐待防止委員会、感染症対策委員会等による法人全体での研修等、ガイドラインに基づいた研修をしている。外部講師を招いての講習に加えて、季節や時期に応じた研修も行っている。	
適切な支援の提	11	適切に支援プログラムが作成、公表されているか。	10		全職員で支援プログラムに関して話し合いをしている。	令和8年2月末に作成を行い、ホームページ上に公表している。	
	12	個々のこどもに対してアセスメントを適切に行い、こどもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、放課後等デイサービス計画を作成しているか。	10		一人ひとりに沿った個別支援計画書を作成している。	今後も、保護者からの聞き取りと、相談支援専門員との情報交換、職員からの情報をもとに、児童の発達課題を明確にした個別支援計画書の作成していく。	
	13	放課後等デイサービス計画を作成する際には、児童発達支援管理責任者だけでなく、こどもの支援に関わる職員が共通理解の下で、こどもの最善の利益を考慮した検討が行われているか。	10		毎日の朝礼・終礼にて情報共有や課題、結果等話し合っている。職員会議等の機会も設けて課題の改善に繋げている。	職員が参加できる時間帯を調整し、議論への参加機会を増やしていきたい。また、こどもの具体的な状況やニーズに基づき、事例検討を進めていく。	
	14	放課後等デイサービス計画が職員間に共有され、計画に沿った支援が行われているか。	10		職員間で計画を共有するためのカンファレンスやミーティングを定期的実施している。	今後も、カンファレンス等を通して共有していきたい。その際、新たな課題が見つかった場合は、早期に修正していく。	
	15	こどもの適応行動の状況を、標準化されたツールを用いたフォーマルなアセスメントや、日々の行動観察なども含むインフォーマルなアセスメントを使用する等により確認しているか。	10		FIM等を用いて分析、評価をしている。支援記録や月間カンファレンス、朝礼や終礼等にて日々職員間での情報共有を徹底している。	国際基準であるFIMの評価シートを使用し、アセスメントとモニタリングを実施している。今後も、日々の変化を観察、評価していく。	
	16	放課後等デイサービス計画には、放課後等デイサービスガイドラインの「放課後等デイサービスの提供すべき支援」の「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」及び「地域支援・地域連携」のねらい及び支援内容も踏まえながら、こどもの支援に必要な項目が適切に設定され、その上で、具体的な支援内容が設定されているか。	10		ガイドラインを主軸として、活動内容を展開している。「本人支援」、「家族支援」、「移行支援」、「地域支援・地域連携」それぞれの項目を明確に設定し、子どものニーズに合わせた支援内容を計画に反映している。	今後も、お子さんの支援に必要な項目を選択し、多職種でカンファレンスを行い、多角的に支援計画を検討していく。	
	17	活動プログラムの立案をチームで行っているか。	10		ガイドラインに沿った活動を行っている。	今後も、児童に合わせた外出や活動内容を常に話し合い、体験的活動を設定していく。	
	18	活動プログラムが固定化しないよう工夫しているか。	10		職員間で話し合い、前年度の活動プログラムと照らし合わせながら、毎年固定化された活動内容がないか確認している。	日々の活動内容や毎月の外出先を変え、支援を行っている。今後も、長期休みでは動物園や博物館などの地域資源を活用していく。	

供	19	こどもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ放課後等デイサービス計画を作成し、支援が行われているか。	10	個別、集団共に児童に合わせて作成している。活動プログラムの内容や進め方等について、事前に全職員で打ち合わせを行っている。	今後も、児童発達支援管理責任者が立案した個別・集団活動の目標を達成したのか、支援記録に記載するとともに、情報を出し合い、客観性・実効性を高めるようにしていく。
	20	支援開始前には職員間で必ず打合せを行い、その日行われる支援の内容や役割分担について確認し、チームで連携して支援を行っているか。	10	毎朝ミーティングで確認している。	今後も、毎日必ず始業時に、また、急な変更が出た場合、送迎前や送迎後にも必要に応じて時間を取り、全職員で確認し業務にあたっていく。
	21	支援終了後には、職員間で必ず打合せを行い、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有しているか。	10	連絡事項や確認事項等、職員同士で意見を出し合い共有している。	風通しの良い職場環境づくりを目指し、各職員が感じたことを何でも言える場を設定している。今後も、多角的・多面的な視点からの意見をすべて吸い上げるようにしていく。
	22	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげているか。	10	個別支援計画書に基づいた支援記録を行っている。	日々、支援記録を作成し、支援内容を振り返ることで支援計画に反映している。
	23	定期的にモニタリングを行い、放課後等デイサービス計画の見直しの必要性を判断し、適切な見直しを行っているか。	10	児童の成長過程があるため、随時行っている。	支援開始前、半年毎にモニタリングを行っている。また、必要に応じてモニタリングの実施と個別支援計画書の変更を行っている。
	24	放課後等デイサービスガイドラインの「4つの基本活動」を複数組み合わせ支援を行っているか。	10	ガイドラインに記載している基本活動を中心に日々の活動をバランスよく配列できるように工夫している。	業務日誌にガイドラインのすべての項目を反映している。支援記録もガイドラインに沿って記録している。
	25	こどもが自己選択できるような支援の工夫がされている等、自己決定をする力を育てるための支援を行っているか。	10	あらゆる場面において、子どもたちの主体性に重きを置いた支援を展開できるよう支援を実施している。	今後、活動プログラムにおいても、子どもたちが選択し得るような内容を増やしていく。
関係機関や保護者との連携	26	障害児相談支援事業所のサービス担当者会議や関係機関との会議に、そのこどもの状況をよく理解した者が参画しているか。	10	管理者及び児童発達支援管理責任者が参加する体制を取っている。	管理者及び児童発達支援管理責任者が参加している。又、児童と関わる時間の長い職員や有資格者も必要に応じて参加している。
	27	地域の保健、医療（主治医や協力医療機関等）、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携して支援を行う体制を整えているか。	10	地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関との連携を意識し、必要に応じて情報を共有するよう努めている。	子どもの状況に合わせて、必要な支援が受けられるよう関係機関との連携を増やす方向で検討していく。
	28	学校との情報共有（年間計画・行事予定等の交換、こどもの下校時刻の確認等）、連絡調整（送迎時の対応、トラブル発生時の連絡）を適切に行っているか。	10	一人ひとりの児童の利用状況を伝え、情報共有している。	学校との直接的な情報共有に加え、利用予定表や時間割を活用し連絡調整を行っている。
	29	就学前に利用していた保育所や幼稚園、認定こども園、児童発達支援事業所等との間で情報共有と相互理解に努めているか。	10	密に連絡を取れる体制づくりに努めている。	関係機関との連携を強化し、支援計画を共有する際に意見交換を積極的に行えるようにしていく。
	30	学校を卒業し、放課後等デイサービスから障害福祉サービス事業所等へ移行する場合、それまでの支援内容等の情報を提供する等しているか。	10	現在、学校を卒業する児童はいない。	該当児童がない。
	31	地域の児童発達支援センターとの連携を図り、必要等に応じてスーパーバイズや助言や研修を受ける機会を設けているか。	10	密に連絡をとれる体制づくりに努めている。	福岡市外のチャイルドハートの児童発達支援事業所や相談支援専門員からの助言を受けている。又、事業所としても外部研修への参加を促し、職員間で情報を共有している。
	32	放課後児童クラブや児童館との交流や、地域の他のこどもと活動する機会があるか。	10	個人情報の観点から交流の機会はない。個人情報の観点から現在行っていない。	個人情報保護の観点から現在行っていない。また、それを望まない保護者が多数いることも要因の一つになっている。閉鎖的な事業所にならないよう外部講師を招くなど地域に根差す事業作りに尽力していく。
	33	（自立支援）協議会等へ積極的に参加しているか。	10	積極的に参加できる体制づくりをしている。	勉強会や研修に参加し、伝達講習もしている。積極的に参加できる体制づくりを検討していく。
	34	日頃からこどもの状況を保護者と伝え合い、こどもの発達の状況や課題について共通理解を持っているか。	10	担当者会議や送迎時など、日々の状況を伝え合うように努めている。	保護者様との情報の共有と共通理解が図れるように努めている。管理者や児童発達支援管理責任者を中心に改善を図っていく。
	35	家族の対応力の向上を図る観点から、家族に対して家族支援プログラム（ペアレント・トレーニング等）や家族等の参加できる研修の機会や情報提供等を行っているか。	10	連絡帳で日々の様子を伝えするとともに、送迎時にも都度活動の様子や状況を伝え、情報共有を行っている。	個別面談等で適時行っている。家族支援の機会をより充実させ保護者の学びを深める機会の提供をしていきたい。
関係機関や保護者との連携	36	運営規程、支援プログラム、利用者負担等について丁寧な説明を行っているか。	10	見学時や契約時に運営規程や利用者負担等について詳しく説明し、保護者が納得した上で利用を開始できるよう努めている。	契約時に重要事項説明書を用いて、説明を行っている。支援内容は保護者の意向をくみ取る様努めていく。
	37	放課後等デイサービス提供を作成する際には、こどもや保護者の意思の尊重、こどもの最善の利益の優先考慮の観点を踏まえて、こどもや家族の意向を確認する機会を設けているか。	10	こどもの気持ちや意見にも耳を傾け、本人の意思を計画に反映させよう努めている。また保護者が気軽に意見を伝えられるよう日々のコミュニケーションを大切にしている。	保護者会の開催だけでなく、必要に応じて、個別相談の場を設け、直接意見を聞く機会を増やしていきたい。
	38	「放課後等デイサービス計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から放課後等デイサービス計画の同意を得ているか。	10	面談時に支援内容の説明を行い、保護者の方から同意していただいたうえで署名をいただいている。また相談支援専門員の方と連携をとりながら、実施している。	今後も、理解、イメージがしやすいように、活動時の例を提示しながら、わかりやすいような説明を心掛けていく。
	39	家族等からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、面談や必要な助言と支援を行っているか。	10	必要に応じて面談だけではなく、電話やLINE等でも相談を受け付けており、支援方法などを提案している。	保護者様からの悩みや通学等の相談があったときは、真摯に受け止め、誠意をもって相談に応じていく。

保護者への説明等	40	父母の会の活動を支援することや、保護者会等を開催する等により、保護者同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。また、きょうだい同士で交流する機会を設ける等の支援をしているか。	10		保護者同士が交流できる場として保護者会を開催し意見交換や情報共有ができる機会を設けている。	公民館を貸し切り、事業所ごとに部屋を分けて保護者会を実施している。毎年開催していきたい。
	41	子どもや保護者からの苦情について、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、苦情があった場合に迅速かつ適切に対応しているか。	10		適正委員会との適切な対応を心掛けている。	苦情受付窓口や苦情解決責任者を設置しており、苦情については迅速に対応している。解決方法を職員間で協議し、解決に努めている。
	42	定期的に通信等を発行することや、HPやSNS等を活用することにより、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信しているか。	10		利用届を通して、毎月の活動を発信している。また、活動の様子を連絡帳だけでなく、写真を送るなどしている。	今後も、わかりやすくに情報を発信していく。
	43	個人情報の取扱いに十分留意しているか。	10		個人ファイルに関しては、鍵付き書庫で管理している。写真を送る際も、映り込みがないか、最善の注意を図っている。	個人情報保護については、日々あらゆる面において注意しながら業務にあたっている。
	44	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしているか。	10		状態に応じて視覚支援等を用いて情報の伝達を行ったり、意思の疎通ができるよう努めています。	児童には言語的、非言語的アプローチ及び見える化を行っている。保護者様へも必要に応じて情報伝達を行っている。
	45	事業所の行事に地域住民を招待する等、地域に開かれた事業運営を図っているか。		10		行事への参加は行っていないが、地域行事の情報は収集するようにしている。
非常時等の対応	46	事故防止マニュアル、緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や家族等に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施しているか。	10		事故防止や緊急時対応、防犯、感染症対応に関する各種マニュアルを定期的に見直し、最新の状況に即した内容を反映している。避難経路等は地域に合わせて、各マニュアル作成をしている。	職員に対しては、個人研修を行っている。また、緊急連絡網を作成し、事業所内に掲示している。今後も、保護者様へわかりやすいように周知していく。
	47	業務継続計画（BCP）を策定するとともに、非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っているか。	10		基準に則り、研修及び訓練を定期的に行っている。	職員が自信を持って行動できるよう、災害対応に関する研修を通して意識を高めていきたい。
	48	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等の子どもの状況を確認しているか。	10		服薬等の必要な子どもの保護者より、状況を共有し確認している。	保護者が安心して状況を伝えられるよう、相談しやすい環境や仕組み作りを進めていきたい。
	49	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされているか。	10		FIMで調査をしている。保護者様から聞いた際には、すぐに対応している。	今後も、アレルギーに関してはアセスメント時に聞き取りし、活動内でアレルギーを引き起こす可能性がある食材を使用しないようにしている。
	50	安全計画を作成し、安全管理に必要な研修や訓練、その他必要な措置を講じる等、安全管理が十分された中で支援が行われているか。	10		基準に則り、研修及び訓練を行っている。	日常的な安全点検を職員全員で行い、潜在的なリスクの早期発見と対応を目指していきたい。
	51	子どもの安全確保に関して、家族等との連携が図られるよう、安全計画に基づく取組内容について、家族等へ周知しているか。	10		安全計画を作成し、見やすいところに掲示を行っている。	安全計画を作成し、見やすいところに掲示を行っている。
	52	ヒヤリハットを事業所内で共有し、再発防止に向けた方策について検討をしているか。	10		作成後はオーナー、本部に報告し、事後対策は必ず行っている。	インシデント、アクシデントも含めてその日のうちに作成し、全職員に周知している。
	53	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしているか。	10		定期的に研修を実施し、日ごろから自己研鑽に励んでいる。	事例検討や虐待防止研修を実施し、研修後、評価表による自己評価を通して、日頃の児童への関わり方を検討し合い、改善すべき点は全職員で協議し、虐待行為は絶対に取らないという共通認識に立つようしていく。
54	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、放課後等デイサービス計画に記載しているか。	10		業務日誌への記載を心掛けている。場所・時間を考慮し、基本的に身体拘束おこなっていない。	3原則に沿って行うが、身体拘束した事例はない。身体拘束を行った場合は保護者様に説明後、同意書を頂くことになっている。	